

公社) 日本山岳会栃木支部 2025 年 4 月マスターズクラブ山行報告書

1 期日：2025 年 4 月 16 日（水）

2 場所：小倉城跡及び岩崎城跡（日光市）

3 コース：小倉城跡登山口ー小倉城跡ー八方館（往復）
観世音そば下の家ー岩崎観世音ー岩崎城跡（往復）

4 参加者：菱田克彦、石井シモ子、君島敏明、大島健一
ゲスト：鈴木清一、福田隆、小川英世

5 行動概要

今回はピークを目指す山登りではなく、城跡の調査記録を趣味とされる小川氏に案内をお願いして、日光市にある中世の城跡 2 か所に行った。

9:30 小倉（こぐら）城跡登山口（標高約 200m）に行くと、パトカーと数台の車が止まっていた。何事かと思い聞いてみると訓練だとのこと。事故があっても助けてもらえそうなので安心できた（笑）。

9:40 準備運動の後、出発。登り始め部分は、最近作られたように見える階段があり、歩きやすい。城跡のあるピークに近づくと、斜面に沿って縦に掘られた「縦堀」がある。さらに上に上がると「横堀」、それを渡る「土橋」がある。普通なら見過ごしてしまうようなものなので、専門家による解説がありがたかった。三角点（390.8m）のあるピークが小倉城の「主郭（本丸）」だ（10:20）。

少し休憩した後、『八方館』と呼ばれるところへ進んだ。ルートは西から南に回り込むような感じで、途中から鹿沼市との市境となり、約 380m のピークに『八方館』がある（10:50）。『八方館』という名前であるが、「館」というような建物はなかったようだ。この尾根上は、とても風が強かったが、そんな「二荒嵐」を防ぐように『八方館』は、北西面が高くなっている。風の強い北西側の斜面にイワウチワが見られた。

この尾根をさらに進むと、次石山（つげいしやま、473.1m）に至るが、ここから出発点に戻った（12:00）。

昼食は、次に行く岩崎城跡の登り口にある『観世音そば下の家』で食べるので、車で移動し、そこで午後所要のある君島氏と別れた。地元産のそば粉を使ったそばを食べた後、岩崎城跡を目指した（13:15、標高約 220m）。まず岩崎観世音の石段をのぼり、観世音堂をお参りした。このお堂には立派な彫刻が施されている。この先に奥の院がある。近年落石防止のためのネットが張られ、安全にはなったが、景観が悪くなった。

奥の院は帰りに寄ることにして、城跡へ向けて進んだ。先に訪れた小倉城跡への道と比べると、あまり歩きやすくはないが、ルートは明確で、ヒカゲツツジがあちこちで咲いていた。



小倉城跡



岩崎城跡



ヒカゲツツジ

3つほど小ピークを越えて行くと、三重の堀がある。堀を超えた先が「主郭」（標高 359m）で、『三峰山』との山名板があり、イザナギ・イザナミを祀った石祠がある。祠内には、狛犬ならぬ、牙が表現された「山犬（オオカミ?）」がある（14:25）。

来た道に戻り、奥の院に寄ったのち、観世音そば下の家で解散した（16:00）。

日差しには恵まれたが、風が強い日であった（最大風速：日光東町 9.4m、鹿沼市 10.2m）。いつもと違った切り口の山歩きで、戦国時代の人々の活動を想像することがとても楽しく、昼のソバも良かった。中世の山城の跡は、日光市だけでもまだまだたくさんあり、別のところにも行ってみたいくなった。小川氏に感謝。

6 ヒヤリハット

なし

（菱田 記）

